

第2章 千葉県の子育て支援実態調査結果

1	調査概要	
	(1)小中高校生アンケート	25
	(2)大学生アンケート	27
	(3)学校アンケート	28
	(4)要保護児童対策地域協議会アンケート	29
2	小中高校生アンケート結果	
	(1)世話をしている家族の有無	30
	(2)基本情報	34
	(3)普段の生活の状況	42
	(4)家族のお世話の状況について	58
	(5)ヤングケアラーについて	86
3	大学生アンケート結果	
	(1)基本情報	101
	(2)普段の生活の状況について	105
	(3)家庭や家族のことについて	112
	(4)ヤングケアラーについて	123
4	学校アンケート結果	
	(1)学校の概要	127
	(2)支援が必要だと思われる子どもへの対応	128
	(3)ヤングケアラーについて	143
	(4)ヤングケアラーと思われる子どもについて、 外部の支援につないだケースの概要	149
5	要保護児童対策地域協議会アンケート結果	
	(1)ケース登録件数	155
	(2)ヤングケアラーと思われる子どもへの対応	156
	(3)要保護（要支援）児童の中に「ヤングケアラー」と思われる 子どもがいた場合の対応	158
	(4)ヤングケアラーの早期発見や支援についての課題	162
	(5)ヤングケアラーと思われる子どもへの対応として 関係機関に期待すること	163
	(6)ヤングケアラーと思われる子どもへの対応として必要な支援	167
6	実態調査結果等から見えてきた主な課題	
	(1)早期発見・把握から支援への連携	173
	(2)望まれる支援	176
	(3)各組織・団体等の役割の明確化と連携体制	178

第2章 千葉県のヤングケアラー実態調査結果

1 調査概要

(1)小中高校生アンケート

①調査目的

千葉県内の小学生、中学生、高校生におけるヤングケアラーの実態を把握するとともに、県のヤングケアラーに対する今後の支援策を検討する際の参考とすることを目的として、家庭や家族の世話の状況、ヤングケアラーの認識等についてたずねる小中高校生アンケート調査を実施した。

②調査対象

	対象数
①千葉市立を除く全公立小学校の6年生全員、協力の得られた私立小学校の6年生	43,780人 (学校数 642校)
②千葉市立を除く全公立中学校の2年生全員、協力の得られた私立中学校の2年生	41,814人 (学校数 313校)
③千葉市立を除く全公立高等学校の2年生全員、協力の得られた私立高等学校の2年生	31,038人 (学校数 128校)

③調査方法

郵送にて、学校長あて文書と児童生徒・保護者あて依頼文を各学校に送付し、学校経由で、児童生徒に対し、児童生徒・保護者あて依頼文を配布した。

依頼文には、調査の趣旨・概要、調査票のURL・QRコード等を記載し、ウェブ上で回答してもらった。

事前周知：アンケート調査開始の約2週間前に、県より市町村教育委員会と各学校にアンケート調査の旨を、メールにて事前周知し、協力を依頼した。

④実施時期

令和4年7月8日（金）～8月5日（金）

回答締切：令和4年8月1日（月）

⑤回収状況

	回収数
小学6年生	4,414件
中学2年生	3,927件
高校2年生	3,051件
定時制高校2年生相当	58件

⑥調査内容

- ・ 基本情報（学年、性別、居住地域、学校名、同居家族の状況、健康状態）
- ・ ふだんの生活について（学校の出席状況、習い事や課外活動の状況、学校生活の状況、悩みや困りごと、相談相手、ふだんの生活の状況）
- ・ 家庭や家族のことについて（お世話をしている人の有無、お世話の状況、お世話をしている理由、お世話の内容、お世話を一緒に行っている人、お世話を始めた年齢、お世話の頻度、お世話にかけている時間、お世話をしていることでできていないこと、お世話のきつき、悩みの相談状況、相談した人、相談していない理由、学校や周りの大人に助けてほしいこと、希望する相談方法、相談しやすい相手）
- ・ ヤングケアラーについて（自身がヤングケアラーにあてはまるか、ヤングケアラーという言葉の認知状況、認知経路、ヤングケアラーへの支援のために必要と思うこと）

(2) 大学生アンケート

① 調査目的

千葉県内の大学生におけるヤングケアラーの実態を把握するとともに、県のヤングケアラーに対する今後の支援策を検討する際の参考とすることを目的として、家庭や家族の世話の状況、ヤングケアラーの認識等についてたずねる大学生アンケート調査を実施した。

② 調査対象

千葉県内に所在する6大学（千葉大学、亀田医療大学、川村学園女子大学、淑徳大学、城西国際大学、中央学院大学）に在籍する大学3年生を対象として実施した。対象となる学生は、6大学合計で4,137名であった。

③ 調査方法

調査対象の大学事務室を通じて、学生本人向けに、調査回答フォームのQRコード及びURLを記載した調査依頼文をメールにて送付し、ウェブ上で回答してもらった。

④ 実施時期

令和4年7月8日（金）～8月5日（金）

回答締切：令和4年8月1日（月）

⑤ 回収状況

回収数：71件（うち2件は大学3年生以外であったため、回答対象外とした）

⑥ 調査内容

- ・ 基本情報（学年、性別、年齢、居住地域、大学名、学部、住まい方、同居家族の状況、健康状態、通学時間、奨学金の受給状況）
- ・ ふだんの生活について（大学選択理由、授業への出席状況、生活時間の確保状況、大学生生活の状況、悩みや困りごと、相談相手）
- ・ 家庭や家族のことについて（お世話をしている人の有無、お世話の状況、お世話をしている理由、お世話の内容、お世話を一緒に行っている人、お世話をしている頻度・時間、お世話を開始した時期、お世話が終了した時期、お世話をすることで大学進学時に苦労したこと、あきらめたこと、今後不安なこと、就職に関する不安、お世話のきつき、自身がお世話をする理由、悩みの相談状況、相談していない理由、大学や周りの大人に助けてほしいこと、希望する相談方法、相談しやすい相手）
- ・ ヤングケアラーについて（自身がヤングケアラーにあてはまるか、ヤングケアラーという言葉の認知状況、認知経路、ヤングケアラーへの支援のために必要と思うこと）

(3) 学校アンケート

①調査目的

県内学校におけるヤングケアラーの把握状況や対応状況の実態を把握することを目的とする。

②調査対象

県内の小学校・中学校・高等学校を調査対象とする。

対象件数及びその内訳は、下表の通り。

	対象件数
千葉市立を除く全公立小学校、協力の得られた私立小学校 (義務教育学校前期課程を含む)	642 件
千葉市立を除く全公立中学校、協力の得られた私立中学校 (義務教育学校後期課程を含む)	315 件
千葉市立を除く全日制および通信制の公立高等学校、 協力の得られた私立高等学校	123 件
定時制の公立高等学校	16 件
合計	1,096 件

※1 義務教育学校は前期課程・後期課程をそれぞれ1件とカウントする。

※2 高等学校において課程が複数ある場合は、1課程を1件とカウントする。

③調査方法

電子ファイルの調査票を、メールにて配布・回収。

④実施時期

令和4年7月8日(金)～令和4年10月7日(金)

回答締切：令和4年8月1日(月)

⑤回収状況

回収件数及び回収率は、下表の通りであった。

	回収件数	回収率
千葉市立を除く全公立小学校、協力の得られた私立小学校 (義務教育学校前期課程を含む)	583 件	90.8%
千葉市立を除く全公立中学校、協力の得られた私立中学校 (義務教育学校後期課程を含む)	283 件	89.8%
千葉市立を除く全日制および通信制の公立高等学校、 協力の得られた私立高等学校	122 件	99.2%
定時制の公立高等学校	14 件	87.5%
合計	1,002 件	91.4%

※1 義務教育学校は前期課程・後期課程をそれぞれ1件とカウントする。

※2 高等学校において課程が複数ある場合は、1課程を1件とカウントする。

⑥調査内容

- ・支援が必要と思われる子どもへの対応状況
- ・ヤングケアラーの把握状況・対応状況
- ・ヤングケアラーと思われる子どものケース

(4) 要保護児童対策地域協議会アンケート

①調査目的

要保護児童対策地域協議会におけるヤングケアラーの把握状況や対応状況の実態を把握することを目的とする。

②調査対象

県内の要保護児童対策地域協議会（千葉市内を除く 53 協議会）

③調査方法

電子ファイルの調査票をメールにて配布・メールにて回収。

④実施時期

令和4年7月8日（金）～令和4年10月7日（金）

回答締切：令和4年8月1日（月）

⑤回収状況

回収件数は 49 件、回収率は 92.5%であった。

⑥調査内容

- ・ヤングケアラーと思われる子どもの把握状況
- ・ヤングケアラーと思われる子どもがいる場合の対応
- ・ヤングケアラーの早期発見や支援の取組や課題